てんえいしょう だより

「てらす笑顔がひろがる　みんなが主役
笑顔をたいせつに　いつでもやさしい天栄小学校

鈴鹿市立天栄小学校
発行　校長 松岡 宏樹
令和８年11月６日
No.21

カラー版は
ホームページで

天栄中学校区における義務教育学校の設置方針について

天栄中学校区では、子どもたちの未来に向けた新たな教育環境の構築をめざし、2032（令和 14）年度の「義務教育学校」開校に向けた検討を進めています。今回は、鈴鹿市教育委員会が策定した「義務教育学校設置方針」の概要をお知らせいたします。（鈴鹿市役所の HP の鈴鹿市教育委員会のページにこの設置方針が掲載されています。）

1 「設置方針」とは何か

「設置方針」とは、義務教育学校の開校に向けた基本的な考え方や今後の検討の方向性をまとめた土台（指針）です。

令和８年９月に鈴鹿市教育委員会によって策定されました。今後、具体的な内容を定める「設置計画」をつくっていくにあたり、保護者や地域の皆様、学校と意見を交わしながら議論・検討をスムーズに進めるための出発点となります。

2 義務教育学校をつくる理由・利点（メリット）

【つくる理由と背景】

少子化による**児童生徒数の減少**や社会環境の変化に対応し、子どもたち一人ひとりが主体的に学び、自ら考えて行動する力を育むためです。小学校から中学校までの９年間を一貫して見通した連続性のある教育を行うことで、持続可能でより質の高い教育環境を整えます。

【義務教育学校の３つの利点（変革メリット）】

≪児童生徒：中１ギャップの軽減≫
学習や生活スタイルの急激な変化を緩やかに移行させ、９年間継続して指導・支援することで、中学校進学時の不適応（いわゆる「中１ギャップ」）の緩和・解消を図ります。

≪教職員：一体的な組織運営≫
１人の校長のもとで小・中の教職員が１つのチームとなり、児童生徒の日々の情報を共有します。小学校教員のきめ細かな指導と中学校教員の専門的な指導を融合させ、より手厚い教育を実現します。

≪教育課程：柔軟なカリキュラム≫
９年間を発達段階に応じた学年区分（例：4-3-2 制など）に整理し、基礎・基本から活用・探究へと段階的に学べる柔軟なカリキュラムや、地域ならではの独自教科を設定できます。

3 義務教育学校設立までの流れ

【大きなロードマップ】
　開校目標である 2032（令和 14）年度 4 月に向けて、ソフト面（計画・組織）とハード面（施設整備）の両面から段階的に進めます。

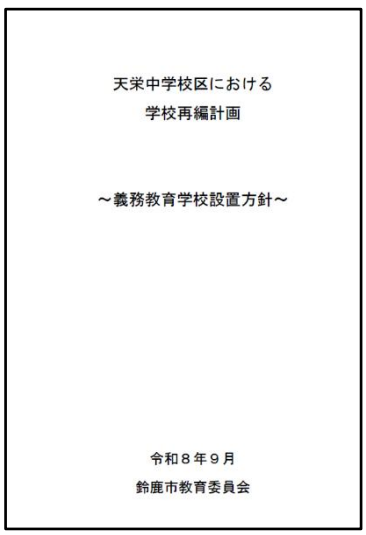
≪ソフト面（計画・準備）≫
・令和 8 年度：設置方針の策定（今回）
・令和 9 年度：設置計画（素案）の作成・意見公募
　　（パブリックコメント等で広く意見聴取）および設置計画の策定
・令和 10 年度～：保護者や地域住民の方々が参加する「準備会議」を立ち上げ、
　　具体的に協議

≪ハード面（施設整備）≫
・令和 8 年度後半～10 年度：基本計画（課題整理・概算工事費の検討）、
　　基本設計（配置や機能の具体化）、
　　実施設計（詳細設計）を順次実施
・令和 11 年度～：入札・契約、工事に着手
・令和 14 年度 4 月：開校予定

【天栄小学校を候補地とした理由と調査について】

≪選定の理由≫
　市有財産の有効活用という考え方に基づき、天栄中学校区内の既存学校施設を対象に、位置、敷地面積、既存施設の築年数、安全性、スクールバスの運用、実現性などを総合的に検討・整理した結果、天栄小学校の敷地を対象として、義務教育学校の設置に向けた可能性調査を進めることとなりました。

≪現在の調査と今後のステップ≫
　現在は天栄小学校の敷地を対象とした「可能性調査」を進めています。今後は、学年を超えた交流ができる「施設一体型」の学校整備を目指し、基本計画・基本設計・実施設計のプロセスを通じて、安全性や機能性を確保するための詳細な調査・設計を進めていきます。


天栄中学校区における
学校再編計画

～義務教育学校設置方針～

令和８年９月
鈴鹿市教育委員会



天栄小学校の HP で見ることができます